

宮地 裕子 さん

「お客さまが元気になる、喜んでもらえる
 ほんなにいいビジネスはないと思った」



* プロフィール

宮地 裕子(みやち ひろこ)

2003年に九州の福岡大学を卒業。卒業と同時に学生時代に趣味の合気道を通じて知りあった夫と結婚。同年、株式会社日元倶楽部の代表に。夫の勤務先である大阪で主婦をしながら約6年間、独学で足や靴の知識を学び、インソールの商品化に向けて準備を進める。この時期に百貨店でイベントもを行い、ユーザーやバイヤーの声を商品に生かす。2008年6月に東京・浅草橋に予約制の「QUIS QUISサロン」をオープン。現在はサロンでの営業の他、各地の百貨店、スポーツクラブなどでイベントを開催し、足の計測やカウンセリングを行っている。

どなたの足にも合う
インソールを作ります

オーダーメイドの靴のインソールを製造販売する(株)日元倶楽部の代表を務める。

同社が手がけるインソールは、理想的な足裏のアーチを維持すると同時に、その人に合ったツボ押しも可能なのが特長だ。「腰や膝の痛みがきっかけで、私の父が自分の足に合ったインソールを開発したのが始まりです」

従来は石膏などで取っていた足の型を短時間で取れるようにした独自の製法で特許も取得。「足の悩みを抱えているのは圧倒的に女性が多い。長く続いているビジネスに私が育てたい」と父親から技術を受け継ぎ、2003年に起業した。

その時、宮地さんは大学を卒業して結婚したばかり。大阪で主婦をしながら、足や靴の専門知識を学び、約6年間、製品化に向けて準備を進めた。

そして昨年6月、靴のメーカーが多い東京・浅草橋にサロンをオープン。東京進出を機に夫も会社員を辞め、経営の心強いパート

ナーとなった。

ブランド名の「QUIS QUIS(クイスクイイス)」はラテン語で「どなたにでも」を意味する。「足の状態は人によって違います。実は足に合わない靴を履いている方が非常に多く、そこを調整するのがインソールの役割です。どなたにでもぴったりするインソールをお作りします」という思いを込めました

『福・禄・寿』を提供できる
会社でありたい

会社を経営する父、それを手伝う母を見て育った。「いつか自分も事業にチャレンジしてみたい」という気持ちは持っていました。色々なビジネスの種に出合いましたが、このインソールを使ったら、崩しやすかった体調がよくなったとお客さまに喜んでいただけました。ほんなにいいビジネスはないと思いません

インソールのユーザーは足に悩みを抱える50〜60代の女性が多い。働く女性からも「痛かったハイヒールが走れる靴になった」と喜びの声が寄せられている。これからも当社に関わるすべての

方に『福・禄・寿』を提供できる企業でありたいと思っています。

福は幸福や充実感、禄は適切な収益、寿は健康や長寿を意味する。これは大学時代から続けている合気道の師に教えられた言葉だ。

今後はインソールの製作技術者を育て、子育て中や子育てを終えた女性の就業サポートにも力を入れていく。「製作技術者は技術以上にコミュニケーションが大切。コミュニケーションが悪いと、お客さまは『この靴を履いて頑張ろう』とは思えません。人に喜んで欲しいという気持ちを持って持っている女性の能力に注目しています」

* 商品紹介

オーダーメイド母指弓インソール
QUIS QUIS(クイスクイイス)

母指弓ポイント(足ツボ湧泉を中心に足裏のアーチを理想的に整えるポイント)を中心に身体を土台から整える高機能インソール。外反母趾、扁平足、足の疲れやむくみ、冷えなどのトラブルを抱える人におすすめ。足を計測、カウンセリングして足形をとり、約1週間で完成する。

オーダーは東京・浅草橋の「QUIS QUISサロン」(予約制・03-6231-4255)や百貨店やスポーツクラブのイベントで。 <http://quisquis.jp/>

